

Plat'Home と INTMAX、「モノ」を記述する RWA の汎用トークンプロトコルの商用化に向け事業提携を発表

2024年7月30日「モノ (Things)」を含む RWA (Real World Assets) を記述する汎用トークンプロトコルの商用化を目的とした戦略的パートナーシップを発表しました。



Plat' Home

 TECHNOLOGY to serve you.

ぷらっとホーム株式会社（東京都千代田区九段北4-1-3 代表者 鈴木友康、以下ぷらっとホーム）と INTMAX（Ryodan Systems AG, Hirschengraben 40, 6003 Luzern, Switzerland 代表者 日置玲於奈、以下 INTMAX）は、「モノ (Things)」を含む RWA (Real World Assets：現実資産) を記述する新しい汎用トークンプロトコルの商用化を目的とした戦略的パートナーシップを発表しました。

ぷらっとホームと INTMAX は、近年社会で大きなトレンドとなっているブロックチェーンの新しい適用領域「RWA (Real World Assets：現実資産)」のトークン化においてパートナーシップを発表しました。

本パートナーシップは、ぷらっとホームが開発する、IoT (Internet of Things：モノのインターネット) や Things (モノ) を含む広範な非金融領域の物理アセット (RWA) をトークン化する技術「ThingsToken™」と、INTMAXが開発する、Ethereum (L1) に対しスケーラビリティとプライバシーを大幅に拡張する新しい Layer 2 技術「Plasma Free」を組み合わせ、近年著しい伸びを見せる金融分野での RWA の対象を、モノや様々なアセットを含む非金融の資産へ大幅に拡大するものです。

本パートナーシップにより INTMAX とぷらっとホームは、従来の RWA の枠組みを大きく拡張して、IoT をはじめとしたデバイス、そしてありとあらゆるモノ (Things) をト

クナイズするプラットフォームを Ethereum エコシステム上の Plasma 環境の上に構築できます。

この結果、原理的には 3 兆個ともいわれる地球上の OT (Operational Technology) と IT (Information Technology) をブロックチェーンの金融テクノロジーに統合し、金融資産に限らないあらゆる現実世界の資産 (RWA) を Web3 エコシステムから取り扱えるようになります。

RWA 市場規模について

現実資産 (RWA) トークン化市場は、2030 年までに 320 兆円規模に成長すると米大手コンサルティングのマッキンゼーが予測しています。

<https://coinpost.jp/?p=540056>

ぶらっとホームの ThingsToken™ について

ThingsToken™ は代替不可能なトークンの一種で、実装系の 1 つとして 2023 年度の日本の農林水産省採択の実証プロジェクト事業 (*) において、コンソーシアム型のブロックチェーンを用いたモデルシステムとして実証投入されました。

モデル実証プロジェクトでは、日立ソリューションズや三井住友海上火災保険、三菱倉庫、日本ガイシをはじめとする日本を代表する IT・流通関係企業が参加し、ThingsToken™ を利用した輸出物流のサプライチェーンネットワークでの輸出製品の個品単位での識別とトレーサビリティの検証を実施しました。 (* 本モデル実証プロジェクトについては後述備考を参照ください)

ThingsToken™ の実装系はクロズドチェーン (閉域型のプライベートチェーンやコンソーシアムチェーン、例: Quorum 等) 及びパブリックチェーン (公開型のチェーン、例: Ethereum 等) など各種想定されます。

本パートナーシップで、パブリックチェーンの標準である Ethereum 上で INTMAX の Plasma 技術を使い、スケーラビリティとともに、トランザクションの大幅な低コスト化と、モノ (Things) と IoT (Internet of Things: モノのインターネット) に必要とされるプライバシーについてのソリューション提供が可能となります。

ぶらっとホームと INTMAX は、Web3 の普及による新しい資産記述方法を示すインター

ネットの構成要素の一つとして、ThingsToken™ および Plasma Free の開発・展開を行う予定です。

また、本領域においては、IT や IoT の非金融領域のみならず、現在急速な拡大が始まりつつある FinTech や金融領域の RWA とのクロスオーバーしたユースケースが想定されることから、実装や適応においては、各国・各種の法律・業界ルールへの準拠の上でその協業を進める予定です。

INTMAX について

INTMAX は、ステートレスなアーキテクチャを先駆的に構築した Ethereum のレイヤー2 であり、ユーザー数に関係なくプライバシーとスケーラビリティを兼ね備えています。クライアント側のデータ保存と実行による Web2 の利便性と、Web3 の分散化とセキュリティを融合させることで、Ethereum とブロックチェーンの普及において重要な役割を果たします。INTMAX は、最も効率的なレイヤー2 ソリューションとして、Ethereum のトップリサーチャーからもその技術の信頼性を賞賛されています。

Plasma Free は、INTMAX がエコシステムと共同で開発している Plasma 技術を用いたプロトコールで、EVM 互換性を備えています。

INTMAX の提供するステートレスな zkRollup や Plasma 技術は、大量のトークナイゼーションに対応することができます。これはより多くのスケールを必要とする IoT でのトークン化と流動化を推進し、まったく新しい市場を作ることになるでしょう。

Plat'Home の鈴木氏は、「INTMAX のもたらすステートレスな L2 技術と当社の ThingsToken の組み合わせで、RWA は、従来の金融アセットのみならず、モノやデバイスなどの非金融アセットまで含む革命的な進化を遂げることになるでしょう。」と述べています。

INTMAX の日置氏は、「ユーザー数に上限がほとんどないスケーラビリティを提供するステートレスの仕組みは、大量のデバイスをトークナイズする用途にも有効に使えます。これにより RWA の領域を物理的なモノにまで拡張する方向を推進することができます。」と述べています。

用語等

・ Web3（ウェブスリー）

Web3は次世代のインターネット技術として提唱されている概念で、分散化・ブロックチェーン・トークンベース経済などが取り入れられている。

・ RWA（Real World Assets）

リアルワールドアセット「現実世界の資産」。狭義には不動産や株式、債権、コモディティ資産（金、石油等）や、美術品などの資産を意味し、あるいはそれら資産についての権利や関係を記述したトークンのこと。（例：証券トークン＝Security Token などの金融系トークン） 広義には、金融系資産を含まないより広義のリアルワールドアセット、例えば、「物」（モノ）や「設備」、「部品（コンポーネント）」も意味し、あるいはそれら資産についての権利や関係を記述したトークンのこと。（例：ThingsToken™）

・ ThingsToken™

ThingsToken™は、現実世界の資産をブロックチェーン上に仮想化できるトークンシステム及びその技術です。現実世界の資産（RWA: Real World Asset）のモノや設備・デバイス群を仮想化することで、Web2の世界をWeb3の世界へ結び付け、現実資産に関連したトークンエコノミクスを加速します。ThingsToken™はぶらっとホーム株式会社の登録商標です。

(*）備考 モデル実証プロジェクト

2024年2月にぶらっとホームはWeb3技術を用いて現実世界の資産、いわゆるRWA（Real World Asset）を記述する新しいトークン技術「ThingsToken™」を実証投入したことを発表しました。

2024/2/7の発表のぶらっとホームプレスリリース

<https://www.plathome.co.jp/press-release/20240207-thingstoken/>

会社概要

・ぷらっとホーム株式会社

代表者：鈴木友康

住所：東京都千代田区九段北 4-1-3 日本ビルディング九段別館 3F

ぷらっとホーム株式会社は、Linux を含む Open Source Software の開発・実用化を推進しており、IoT (Internet of Things: モノのインターネット) 分野において、都市・エネルギー・通信を含む多数の領域で日本有数の導入実績をもつ IoT のリーディング企業です。

・Ryodan Systems AG

Co-Founders：日置玲於奈 藤本真衣

住所：Hirschengraben 40, 6003 Lucerne, Switzerland

イーサリアムの L2 ブロックチェーン、INTMAX の開発企業。INTMAX は、マスアダプションを目指して構築されたステートレスな Ethereum レイヤーです。ステートレス性、先進的なオフラインセキュリティ、資本効率、分散化、プライバシーの原則に基づいて作成されており、現在市場に出回っている中でも最も効率的で、スケーラビリティのあるネイティブ Ethereum L2 ソリューションの 1 つだと、Vitalik Buterin など業界のコアリサーチャーにも認められているプロジェクトです。

本件に関するお問い合わせ先

・INTMAX 広報部

<https://www.intmax.io/>

メール: pr@intmax.io

・ぷらっとホーム株式会社 セールスマーケティング課

pr@plathome.co.jp

※ぷらっとホームおよび Plat'Home の名称・ロゴは、日本国およびその他の国における、ぷらっとホーム株式会社の登録商標または商標です。
※その他、本プレスリリースに記載されている会社名および商品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。